【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 6 日（11 月 5 日午後)】出場選手コメント

◆女子 100m　T11　準決勝

・高田　千明(ほけんの窓口)

予選のときも追い風が強く、腰だけが前に押され、手足は後ろに置いていかれた反省を活かし、手と足を前に前にと意識。今回はちゃんと最後まで走り切った感があった。

（自己ベストにあたる）13 秒 15 というタイムは追い風参考で残念だが、そのタイムでしっかり体が動いたということなので、よかった。今大会では 100m も走り幅跳びも記録を伸ばせた。日頃、コーチたちにいろいろ指示されていることを頭の中に描きながらレースをしてこの結果だったので、今までやってきたことが間違いではなかったというのが分かる大会だった。これからも、メダルに向けて頑張りたい。

◆男子 1500m　T54　決勝

・樋口　政幸（プーマジャパン）

不甲斐ないレースだった。スタートはポテンシャル的に（出遅れても）仕方ないところもあるが、途中でペースが落ち着いたら前にでるプランも考えていた。でも、結局、ハイペースなレースだったので、ポジションを回復できないままに終わってしまった。何もできなかった。

リオパラ以降、思うようにいかない期間が数年続いた中で、今大会は今シーズンの中では一番調子を上げてこれたように思う。それでも、力の差だと感じた。少しでもでも詰めていきたい。冬の間にもう一度作り直したい。まだ、5000mが残っている。もう少しトップに肉薄できるレースをしたい。先頭から 5 番以内を維持し、ラスト 3 周切った辺りでいい位置にいられるよう狙っていきたい。

◆男子　走り高跳び(T44/64)

・成田　緑夢(新日本住設)

冬の世界選手権に出たことはあるが、夏は初めてで、日本代表のユニフォームを着られることをとても誇りに思っている。自己ベストは 1.86m で、今日は 1.84m。近いところまで行けたので、いいかなと思う。

1.88m が跳べなかったというのは改善点があるということ。改善し続けていきたい。例えば、踏切はだいぶよくなってきたが、（助走）スピードを上げると踏切負けするのでその部分を改善していきたい。

1.40m からのスタートは練習通りのやり方。まだ（走り高跳びのキャリアが浅く）高跳び選手のように（数少ない試技での試合は）難しい。

「夏のパラリンピックにも出たい」というのが目標。間に合うかどうかは僕にも分からないが、100%、120%のスピードで進んでいるつもり。ランキングからいうと、まだトップと戦える成績ではないので、（4 位以内内定を逃したことについては）何も思ってない。（東京パラまで）あと 10 カ月。今までの 1 年とほぼ一緒で、高跳び漬けの毎日が送れたらいいなと思う。

・鈴木　徹(SMBC 日興証券)

前回 2017 年のロンドン世界選手権で獲得した銅メダル以上を狙ってはいたが、同じ 3 位という結果だった。でも、メダルは嬉しい。ただ、まだ新しい義足がフィットしてない感じがあり、踏切もジャストミートしなかった。体の状態はよかったので自信もあったが、技術の部分で詰め切れていなかったことが試合で出たなと思う。1.96m は跳びたかったが、たぶん今日の感じだと、2m は厳しいと思った。3～5 位は苦しい戦いになると思っていたので、競り合いのなかで 3 位に入れたのはよかった。いい経験になった。

義足と踏切技術の課題がまた見つかったので、義足の形なども含めて、コーチの先生と詰めていきたい。

（男子の T44/64 の走り高跳びは参加選手数が少なく、東京パラリンピックでの実施が検討中の種目のひとつで、まだ出場内定とならない）

今大会の競技人数は 9 人で、単純に嬉しい。選手が多いほうがテンションもあがるし試合感も出る。（東京パラでは）実施してほしいし、されないと困る。世界に選手はいるが、実力差があり、下位の選手は出にくいが、今回は多くの国が派遣してくれた。そういう意味でもよかった。来シーズン、またいい形でお会いできるように頑張りたいと思う。

（東京パラに出場すれば）6 大会目。たくさん行けるだけ行きたい。現場しか分からないこともたくさんあるし、リオパラリンピックでの悔しい気持ちを挽回するにはパラリンピックでしかできない。楽しみですね、東京が。

◆女子　400m　T38 決勝

竹村　明結美(シオヤレクレーションクラブ)

（レース後過呼吸で医務室へ）

いつもの大会と違って、緊張しました。スタート前にお水を飲んだけど、すぐにのどがカラカラになるくらい緊張した。終わった後は、ゴールした事は覚えているが・・・

スタートダッシュから前半 200mまでは予定通りスピードを上げて走る事ができたが、後半は思う様に体が動かなかった。今回のレースを帰国後、振り返って次に向けて頑張りたい。

◆男子 100m　T64　決勝

・井谷　俊介(SMBC 日興証券)

走り自体はスタートと中盤とよかったので、今日のベストは出せたのかなと思うが、海外勢には及ばなかった。これが今の実力かなと思う。ただし、スタート後の前傾姿勢や脚をしっかり引き上げて踏み込み、地面に対して強く踏む動き作りにずっと取り組んできた。昨日のレースでは疲労があってできなかったが、今日はできていたので、ベストだと思います。義足の扱い方はできている方だと思う。

世界選手権初出場で 2 種目決勝進出

まず、ファイナルまで来られたこと、そして、この舞台で走れたことは、すごく楽しかったし、人生のなかで、一番楽しいのではないかと思うくらい、いい経験ができた。

東京パラの場合は、地元開催だし、しかもパラリンピック。もっともっと楽しいと思う。そこで活躍できることは、人生において本当に貴重な経験になるし、成長できる。支えてくれた皆さんにも恩返しができると思う。そこだけを目指して頑張りたい。

◆女子走り幅跳び　T64　決勝

・中西　麻耶(うちのう整形外科)　金メダル

一番スカッとする勝ち方をしたので、今はすっきりした気持ちです。跳ぶ前に拍手をもらったときに、それまでザワザワしていた客席が幅跳びピットに集中してくれて、拍手に包まれた。跳ぶ前から「これは、行ける」と思った。

「4 位以内で内定」がかかっていたが、みな思ったほど記録が出なく、「どうしよう」といった雰囲気が流れていた。その中で、私は地味だけど安定して跳べていたので、「1 本引っかかれば、20、30 ㎝は出る」と思い、「マイナスなイメージは入れないようにしよう」と思っていた。周りの選手に動揺が見られたが、「私は必ず最後には決められる選手だ」と悪い雰囲気にのみ込まれないようにと思っていた。

初めての国際大会金メダルは、ずっとほしくて 10 何年やってきたので、「やっと取れた

な」という気持ち。でも、記録的には「60、70㎝跳びたい」と今年は思っていたので、結果的にはそれほど満足できていない。今の自分ができることは出せたのかな。

金メダルを獲って嬉しいが、今回は一番のライバルが出場していなかったので、日本に帰ったら、すべてリセットする。6mを跳ばないと東京は難しいと思っているので、そこを目指して、がんばりたい。

・髙桑　早生(NTT東日本)

正直、悔しい。跳躍6本目が終わった後は悔しかったですが、中西選手が素晴らしい跳躍を見せてくれました。長い間、このクラスの女子を引っ張ってくれた先輩が世界選手権で金メダルを取れたことは私も本当に嬉しい気持ちです。すがすがしい気持ちと悔しい気持ちが入り混じる大会でした。

私は最近、大きな舞台で結果を出せず、自信がなくしていました。今大会で自信を取り戻したいと思って挑みました。ここまでいろいろ挑戦してきたし、たくさん練習もしてきたので記録を出したかったけど、「出なかったな」というのが正直なところです。その要因は細かいことを言えばたくさんあります。全部です。

リレーを走るかはまだ分かりませんが、走るなら、ベストを尽くしますし、走らない場合は、（女子キャプテンでもあるし）皆のサポートをがんばります。

◆男子400m(T54)　予選

・鈴木　朋樹(トヨタ自動車)

400mは目標通り、ほぼ全力でいけたと思う。1500m決勝後で時間がないなか、できうる限りリカバリーはできて、（400mのレースに）臨めたと思う。

1500m決勝では結果として8位に終わったが、序盤の走りについてはやりたいことはほ達成できた。今までのレースを考えたら、ダニエルの次（3番手）に（位置を）取りに行くなんてことはできなかった。これまでスタートを見直してきたからこそ、自分の入りたいところに入れてレースが展開できたかなと思う。

今後はダニエルの上げ下げに対応できるよう、東京パラまでに上げていけるかが課題だと思う。スピードは上がっている。あとは持久力がついていくれば、対応できると思うので、来年に向けて取り組みたい。

・西　勇輝(野村不動産パートナーズ)
「今日でこの大会を終えたくない」という気持ちで走った。だから、（予選突破がならず）終ってしまって残念で悔しい。ただ、こうしてレベルの高い大会のスタートラインに立てたことは楽しかった。ここに来るまでいろいろな方にサポートや応援をしてもらっているので感謝したい。東京（パラ出場）はまだ終わっていないと思うので、（次にやるべきことは）タイムを上げて、ランキングを上げること。そこに集中して頑張りたい。

◆男子 100m(T52)　予選
・伊藤　智也選手(バイエル薬品)
アジア新記録ですか？　え、よく走りましたね。コールルームからスタートまでが長くて身体が冷えたので、いい走りができるか不安もあったが、まずまず。よかったです。（レース）回数が増えるほど、（新調した）マシンへのアジャストがよくなっている気がする。昨日より今日、今日より明日と、よくなっていく。伸びしろしかないなか、この結果ならまずまず。メインは 400m。そういう意味では 100m を 3 着で抜けられたのは上出来。あまり大きなことは言えないが、銅メダルを狙えたらいいなあと思います。

・大矢勇気選手(ニッセイ・ニュークリエーション)
自己ベストが出て、決勝進出ができてよかったです。今まで、兄と一緒に二人三脚で行ってきた練習を思い描いて試合に臨みました。その結果が自己ベストや決勝進出につながりました。（初めての世界選手権）緊張はしたが、スタートした瞬間には緊張感がなくなり、いつも通りの走りができました。決勝では 4 位以内で東京パラを目指して走りたい。スタートダッシュが得意なので、今後はスタートしてからの加速をもっとつけていきたいです。

（コメント協力：星野恭子）